

2014

ゲートボール指導者 全国調査報告

概要版

【調査の概要】

調査の目的

ゲートボール指導者の活動実態やニーズ・課題等の把握・分析を行い、普及活動におけるより効果的な推進を図るための基礎データとする。

調査対象・回答数

全国の公益財団法人日本体育協会「公認スポーツ指導者(ゲートボール)」有資格者 1,670名を対象。有効回答数：928名

調査時期

2013年7月～8月

調査方法

郵送法によるアンケート調査

【図の合計値について】 百分比(%)は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。



指導者としての活動状況

指導者としての現在の活動状況を聞いたところ、「自分もプレーしながら時々助言や指導をする程度」の割合が半数近くを占めている。

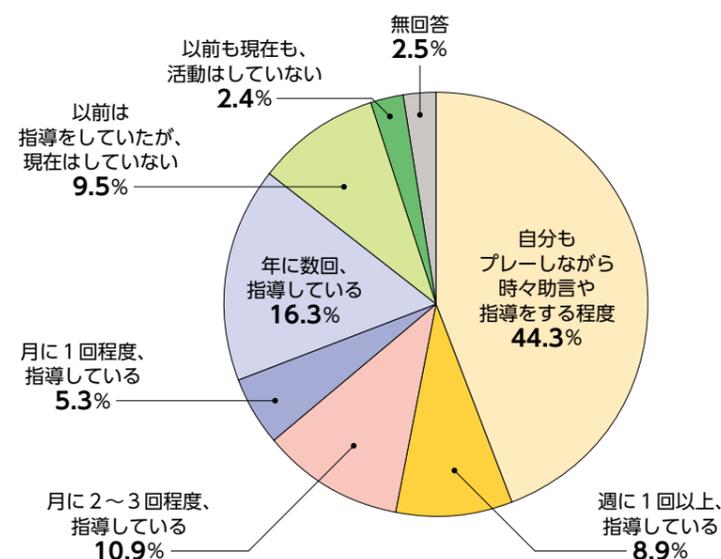
日常的に指導者として活動していると思われる「週に1回以上」8.9%、「月に2～3回程度」10.9%、「月に1回程度」5.3%を合わせると25.1%であり、4人に1人が定期的な指導

を行っていることがうかがえる。

「以前は指導者として指導をしていたが、現在はしていない」人が9.5%いるものの、「以前も現在も、指導者として活動はしていない」人は2.4%とわずかであり、指導者資格取得後、ほとんどの人が何らかの指導活動に関わっていることがわかる。

現在の指導者としての活動状況

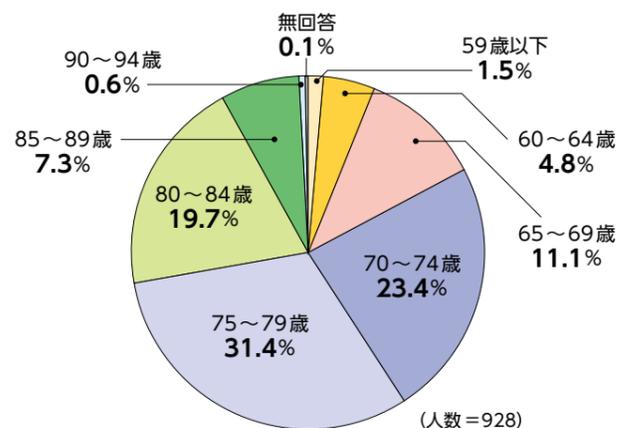
(人数=928)



1 指導者自身のことについて

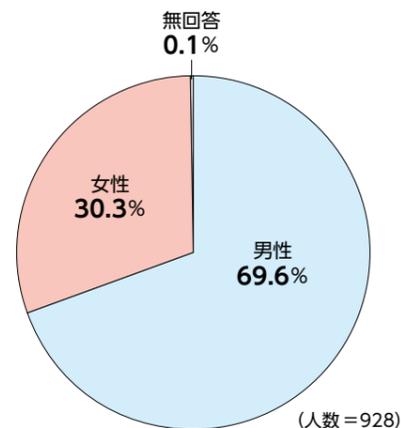
年齢

回答者の約3割(31.4%)が「75～79歳」で最も多く、次いで「70～74歳」23.4%、「80～84歳」が19.7%で続いている。70歳代が全体の54.8%と半数以上を占めている。



性別

「男性」69.6%、「女性」30.3%であり、回答者の約7割が「男性」となっている。



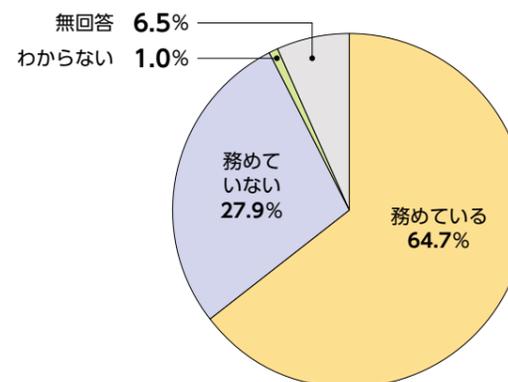
ゲートボールの組織での役員就任状況

現在、ゲートボールにかかわる組織で役員(理事・運営役員など、意思決定者や運営責任を担う機関のメンバー)などを務めているか聞いた

ところ、「務めている」と答えた人が64.7%であり、3人に2人が役員などを務めていることがわかる。

現在のゲートボール関係組織における役員就任状況

(人数=928)



2 ゲートボールの指導活動について

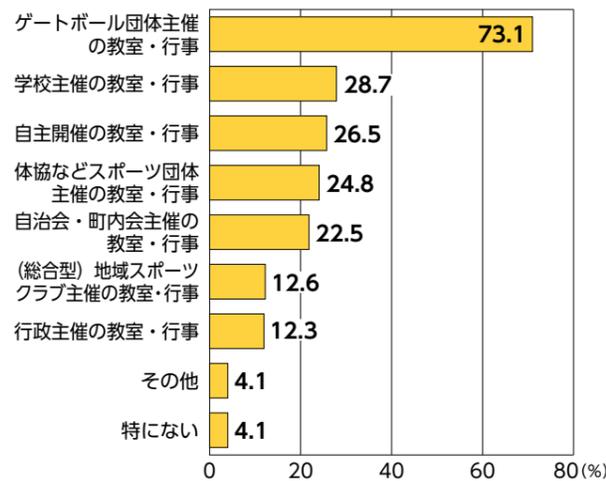
指導の機会・場所の経験

指導の機会・場所の経験について聞いたところ、「ゲートボール団体主催の教室・行事」の割合が73.1%で最も高く、4人に3人が経験している。

次いで「学校主催の教室・行事」28.7%、「自主開催の教室・行事」26.5%、「体協などスポーツ団体主催の教室・行事」24.8%と続いている。

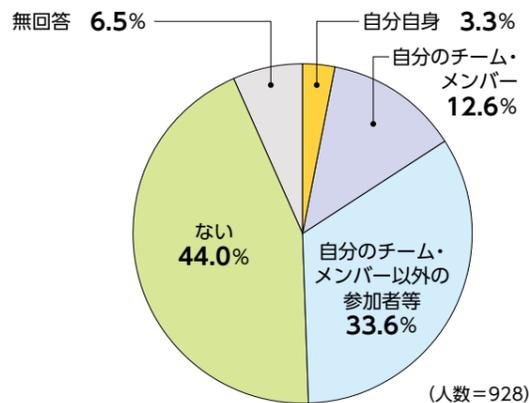
他方、少なかった指導の機会・場所は「行政主催の教室・行事」12.3%、「(総合型)地域スポーツクラブ主催の教室・行事」12.6%であり、指導の機会・場所として、開拓の余地があることがうかがえる。

これまで経験した指導機会・場所(複数回答)(人数=928)



指導・試合中の体調急変、ケガ・事故等の経験

これまで指導中や試合中に、参加者の体調急変、ケガ・事故等にあった経験について聞いたところ、「ない」人が44.0%いるものの、「ある」人は49.5%と約半数にのぼる。中身をみると、「自分のチーム・メンバー以外の参加者等」が33.6%、「自分のチーム・メンバー」が12.6%となっている。「自分自身」は3.3%と少ない。



参考：日本ゲートボール連合「ゲートボール事故に関する予防・防止事業データより」

■ 傷害・疾病状況

	捻挫	挫傷	打撲	骨折	心臓器系障害	脳疾患	その他	合計
22年度	9	3	14	58	14	14	29	141
23年度	7	11	5	55	7	10	15	110
24年度	10	9	18	46	4	15	23	125
合計	26	23	37	159	25	39	67	376

(単位:件)

■ 24年度結果から見る主な事故発生状況

事故発生状況	件数	割合
コートライン、ゲート、ゴールポール等に足をとられ、つまづく等	29件	23%
スティックやボールが当たる等	4件	3%
往復路での交通事故等	35件	28%
その他(主に疾病等)	57件	46%
合計	125件	100%

ゲートボールの指導上、重要だと思うこと(理想、現実)

ゲートボールを指導する上で最も重要だと思うことを、理想と現実にかけて、それぞれ選んでもらった。「理想」としては、「フェア(公正)にプレーすること」が最も多く、次いで「プレーを楽しむこと」が続いている。

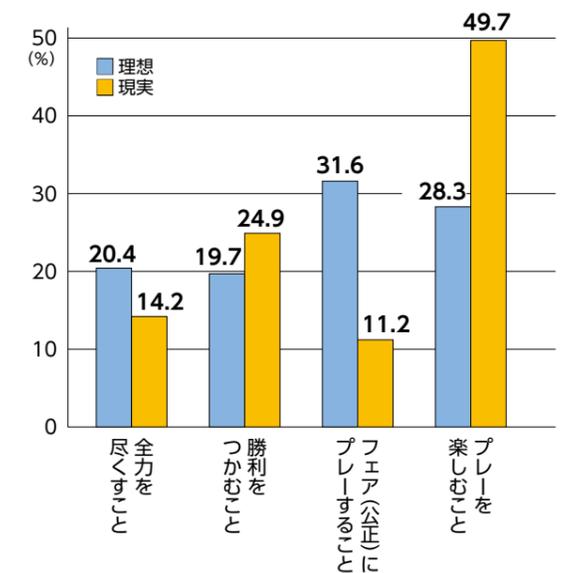
他方、「現実」については、「プレーを楽しむこと」が49.7%と顕著に多い。

「理想」「現実」の数値のズレに注目すると、理想より現実が上回っているのが、「プレーを楽しむこと」(21.4ポイント差)、「勝利をつかむこと」(5.2ポイント差)となっている。

反対に、理想より現実が下回っているのが、「フェア(公正)にプレーすること」(20.4ポイント差)、「全力を尽くすこと」(6.2ポイント差)となっている。この結果から、理想としては「フェア(公正)にプレー」し、「プレーを楽しむこと」を優先すべきと考えているが、実際の指導では、「プレーを楽しむこと」については達成できているものの、フェアプレーよりも

「勝利をつかむこと」に重点をおいて指導する傾向がみられる。

ゲートボールの指導上、重要だと思うこと(人数=928)



プレイヤーとして「魅力的な人」の重要ポイント

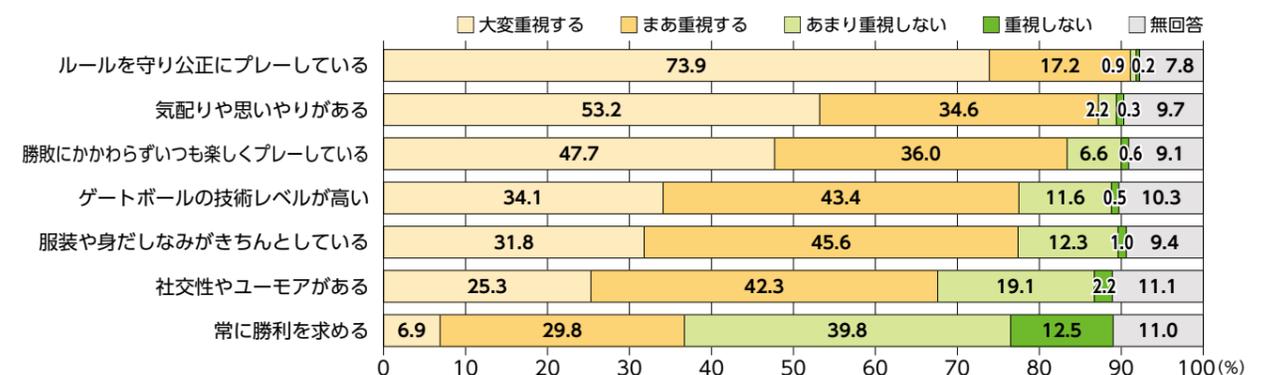
ゲートボールのプレイヤーとして、あこがれるような「魅力的な人」をイメージしてもらい、「人」に関わる7つの項目について、それぞれの程度重視しているか聞いてみた。

「大変重視する」で比較してみると、最も多かったのが「ルールを守り公正にプレーしている」が73.9%で、突出した第1位である。「気

配りや思いやりがある」が53.2%で第2位、「勝敗にかかわらずいつも楽しくプレーしている」が第3位で47.7%であった。

第7位の「常に勝利を求める」人は1割に満たず、「魅力的な人」の要素に入りにくいようである。

ゲートボールプレイヤーとしてあこがれる「魅力的な人」のイメージ(人数=928)

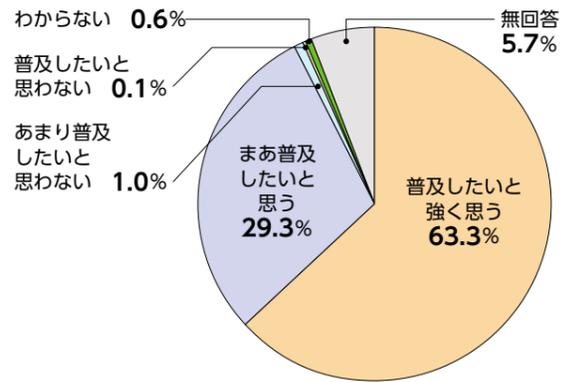


3 ゲートボールの普及や振興について

ゲートボールの普及についての考え

ゲートボールを広く一般に普及したいと思うかを聞いたところ、「普及したいと強く思う」とする人が63.3%で、3人に2人が「強く思う」と回答している。「まあ普及したいと思う」と合わせると、9割を超える人がゲートボールを「普及したい」と考えている。

ゲートボールの普及意欲 (人数=928)



ゲートボール普及のためにやってみたいこと

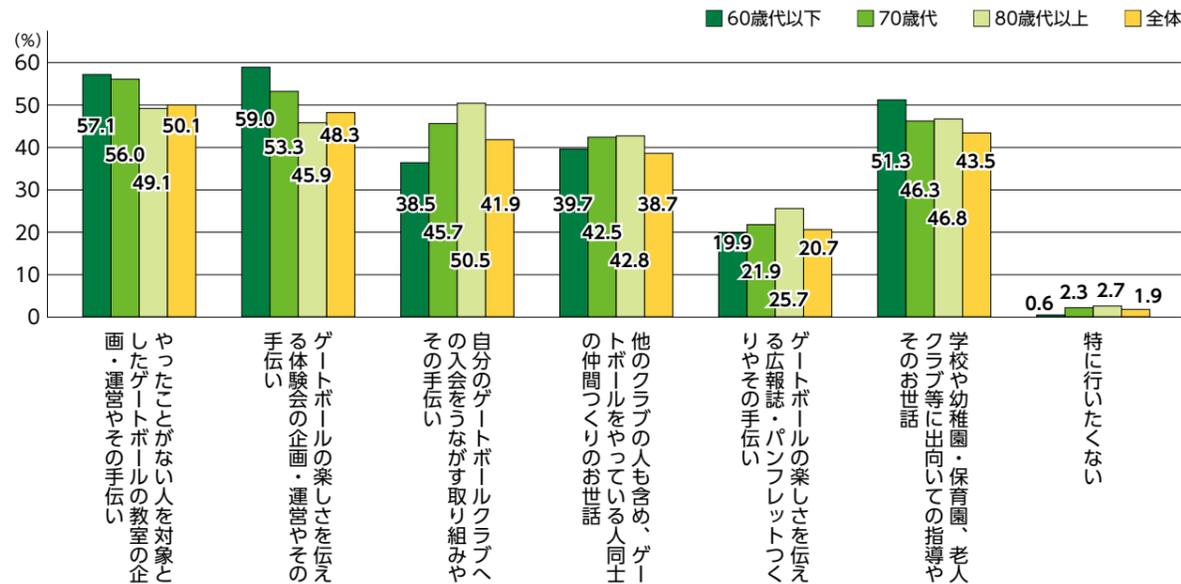
ゲートボールを広めるためにやってみたいと思うものを聞いたところ、全体では「やったことがない人を対象としたゲートボールの教室の企画・運営やその手伝い」が50.1%で最も多く、次いで「ゲートボールの楽しさを伝える体験会の企画・運営やその手伝い」48.3%、「学校や幼稚園・保育園、老人クラブ等に出向いての指導やそのお世話」43.5%で続いている。

「特に行いたくない」人は1.9%と極めて少

なく、無回答の8%を除く約9割が、何かしら「やりたいもの」に○をつけていることがわかる。

60歳代以下の回答割合が70歳代より高い項目の中で差が大きかったのが、「ゲートボールの楽しさを伝える体験会の企画・運営やその手伝い」59.0% (70歳代との差5.7ポイント)、「学校や幼稚園・保育園、老人クラブ等に出向いての指導やそのお世話」51.3% (70歳代との差5.0ポイント)であった。

年代別 普及のためにやってみたいこと (複数回答) (人数=928)



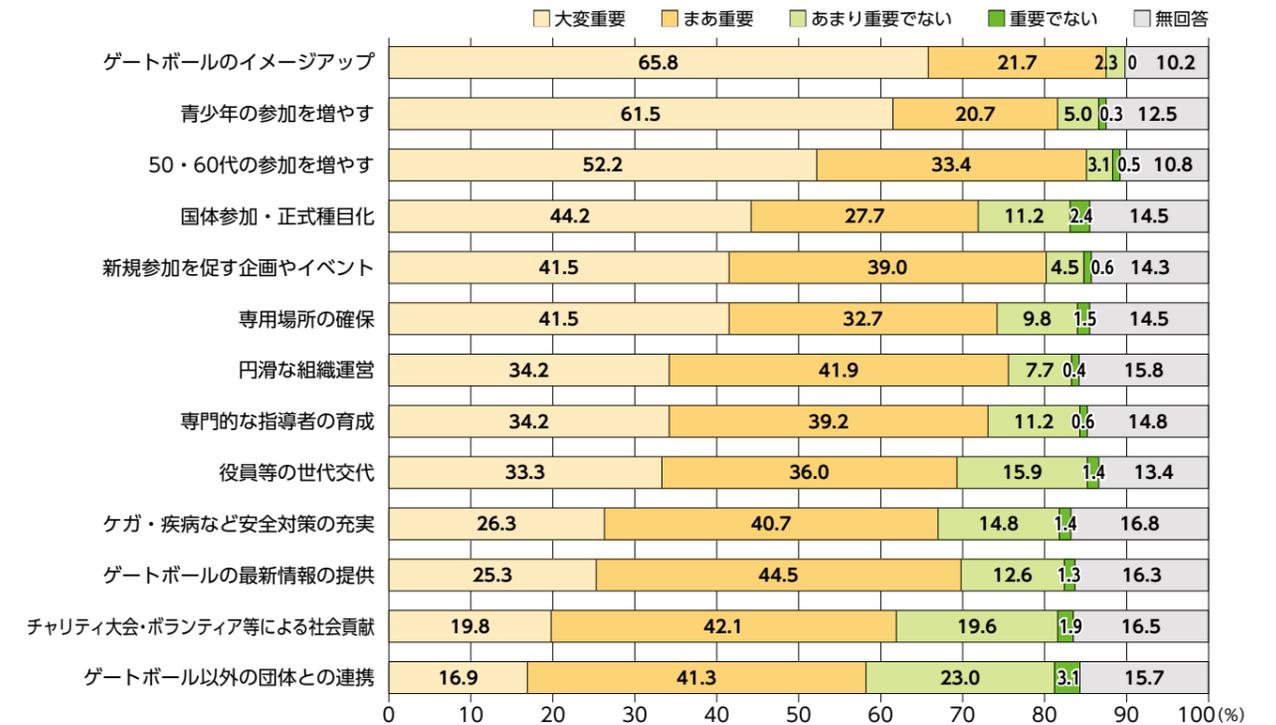
ゲートボールを振興する上で重要なこと

今後、ゲートボールを振興する上で何が重要か聞いてみた。

「大変重要」でみてみると、上位3位では、「ゲートボールのイメージアップ」が65.8%で最も多く第1位、次いで「青少年の参加を増やす」が61.5%で第2位、「50・60代の参加を増やす」が52.2%で第3位で続いている。

どの項目も、「重要でない」「あまり重要でない」との回答に比べて、「大変重要」「まあ重要」が大幅に上回っており、ゲートボール振興への期待の大きさがうかがえる。

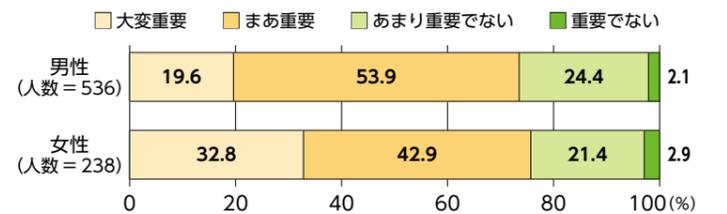
今後ゲートボールを振興する上で重要だと思う点 (人数=928)



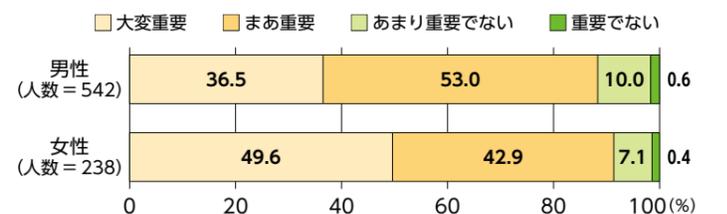
男女別でみた、振興する上で重要なこと

性別でみると、多くの項目において、女性で「大変重要」と回答する割合が高い。なかでも「チャリティ大会・ボランティア等による社会貢献」(男性との差13.2ポイント)、「円滑な組織運営」(男性との差13.1ポイント)と男女差が特に大きい。その他「ゲートボール以外の団体との連携」や「ケガ・疾病等の安全対策の充実」でも女性の割合が高くなっている。

振興重視点 ● チャリティ大会・ボランティア等による社会貢献



振興重視点 ● 円滑な組織運営



自由記述(抜粋)

ゲートボールを広く一般に普及させていくために取り組んでいることについて

設問に対し、491件あった記述回答から645件の意見を抽出した結果、以下の4つの分類項目が上位を占めた。

順位	分類項目	意見数	意見数の割合(645件)
1位	声掛け・勧誘	123	19.1%
2位	ジュニア層(未就学児・学生)への指導経験、または学校への働きかけ	90	14.0%
3位	体験会・教室等、大会以外のイベント開催	54	8.4%
4位	まったくの初心者への指導経験(ジュニア層以外)	53	8.2%

初心者募集のポスターを独自に作成し、市内の掲示板のほか、公民館、図書館、集会所やスーパーなど人の集まる場所に配布や掲示をしています。 [68歳 女性]

ゲートボール教室を開いてもなかなか集まらないので、自分から様々な活動に参加し出向いて、ゲートボールの面白さを伝える、参加への声掛けを行っています。 [70歳 女性]

練習を見ている人がいたら気軽に声掛けをしています。一緒に楽しんでくれるが、会員になってくれる人がなかなかいません。どのようにしたら加入してくれるのか、日々悩んでいます。 [75歳 女性]

私たちの所では、組織全体として「(70歳未満・以上の二部門制で)新人養成事業」を推進し、二年間で約200人の新人を加えることができました。 [68歳 男性]

夏休みの集団ラジオ体操のあとに子どもたちにゲートボールを教えています。 [80歳 男性]

まずはゲートボールの用具に馴染んでもらおうと、地域の運動会などでゲートボールのスティックやボールを使った遊びの種目を入れてもらっています。 [65歳 男性]

小学校の課外活動の一環として指導しています。子どもたちはすぐに会員にはなってくれませんが、将来またゲートボールに戻ってくれば、そして少しでもゲートボールのイメージが変わってくればと願い、地道に続けています。 [85歳 男性]

ゲートボールの技術や経験以上に、人間性やコミュニケーションを大切にできる人達の和を広げるような努力をしています。 [72歳 男性]

私達の言葉遣い。それと上手にプレーできた時は褒める、拍手をする。この雰囲気作りに尽きると思います。 [82歳 男性]

